

3章 施策体系

現在作成中。別紙「施策体系」の表を以下のように文章化する予定。

3.3 社会教育、文化、スポーツ

基本施策 3-1 市民が自ら学びいきいきと活動する地域づくり

これまでの人権尊重を基盤とした社会教育施策を時代に応じた形で充実させるとともに、すでに主体的な活動をしている市民の力が、地域の中で有効に生かされていくように支援し、市民と行政の新しい協働関係をつくることが求められています。

基本政策 3-1 では、学校教育や市民活動も視野に入れた生涯学習という観点から、教育委員会以外の行政組織とも連携したきめ細かい施策を行っていくことを目的とします。

<展開する施策>

(1) 市民の自主的な学習を支えるシステムの充実

あらゆる市民が自主的に学習活動や地域づくりに関わり、地域の中に自分の居場所をつくることをめざし、市民の学びと活動を支援する体制を整備していきます。

具体的な事業

生涯学習に関する総合的なホームページの開設・運営

市民の自主的な学習や活動を支援するため、インターネットを利用して総合的な情報提供や情報の共有を図ります。

市民館を拠点とした生涯学習の推進

市民館においては、これまでの社会教育施策を通して蓄積してきた学習資源を最大限に活かしながら、市民の学習や活動を支援する拠点として、日常生活圏の生涯学習のネットワーク化を推進していきます。

情報センターとしての図書館の充実

図書館を、生涯学習に関する総合的な情報提供を行う情報センターとして充実させるとともに、学校図書館との連携を推進し、市民の主体的な学びや活動、社会的自立を支えていきます。

市民教育の場の充実

企業、大学、地域で活躍している市民グループ等と連携しながら、市民がNPOやボランティアとして地域で活動していくための専門的な力を身に付ける市民教育の場の充実を図っていきます。

.....

4章 プランの進め方

1 プランの広報

本プランは、保護者、地域住民、子どもたちなど、多くの方々の参画を得てはじめて実現可能となります。従って、プランの具体的な推進と同時に、プランの内容に関する PR を進め、プラン実現に向けての協力や参画に関する広報にも力を入れていきます。

2 PDCA のサイクル、スケジュール、進捗管理体制

本プランは、計画（PLAN） - 実行（DO） - 評価（CHECK） - 見直し（ACTION）のサイクルで推進します。

毎年、重点施策の実施状況や得られた成果について評価し、3年後には、評価結果に基づいて、主に重点施策の見直しを行います。

本プランの実施状況や成果の評価、見直しは、拡大教育委員会で行い、評価結果等について市民に公表します。

3 教育目標について

内容はペンディング

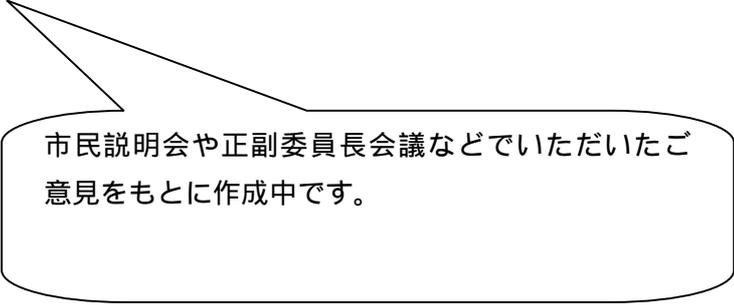
参考

1 市民からの意見の概要

- ・プラン概要版へのご意見(市民・教職員)
- ・市民説明会でのご意見
- ・保護者からのご意見
- ・子どもからの意見
(川崎市子ども会議、小中学校児童生徒)

などの意見を集計・分類しています。

2 「いきいきとした川崎の教育をめざして」の取組の総括



市民説明会や正副委員長会議などでいただいたご意見をもとに作成中です。

- ・正副委員長会議での意見で、資料編に移動しました。
- ・内容はデータ追加、文章修正等作業中のものです。

3 川崎市の教育の現況と課題

川崎市の教育における現況と課題について、教育関連各種データや資料を踏まえて、以下のようにとりまとめました。

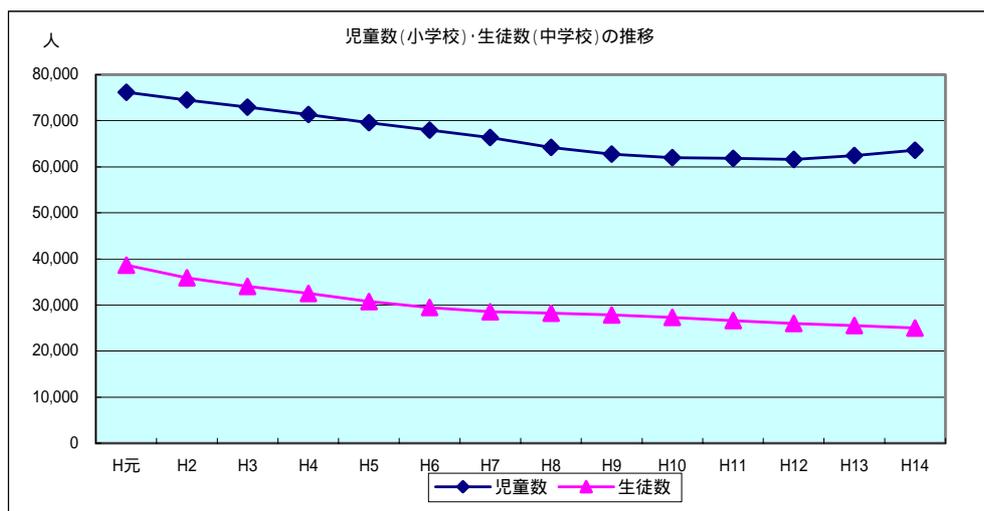
(1) 幼児教育・学校教育の現況と課題

教育環境

学校・園の推移

【現況】

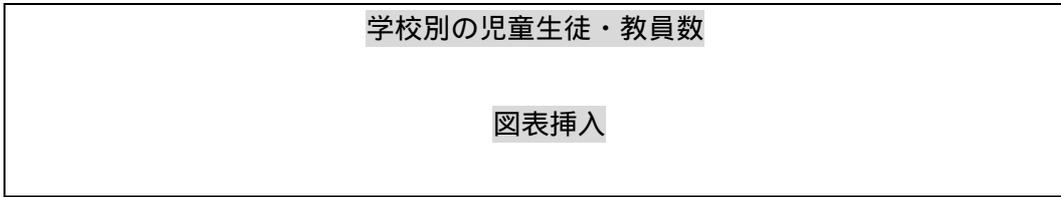
平成16年度の川崎市立学校(園)は、小学校114校、中学校51校、高等学校(全日制・定時制併置)5校、特殊教育諸学校3校、幼稚園2園です。このうち、小学校、中学校の今後10年間の児童生徒数は、全国的な少子化傾向にもかかわらず増加傾向で推移していくことが予想されます。



小学校一校あたりの平均生徒児童数は***** (最大値は*****、最小値は*****)、一校あたりの平均学級数は***** (最大値は*****、最小値は*****)となっています。また、小学校一学級あたりの平均児童生徒数は***** (最大値は*****、最小値は*****)、一教員に対する平均児童生徒数は***、最大値*****、最小値*****となっています。

中学校一校あたりの平均生徒児童数は***** (最大値は*****、最小値は*****)、一校あたりの平均学級数は***** (最大値は*****、最小値は*****)となっています。また、中校一学級あたりの平均児童生徒数は***** (最大値は*****、最小値は*****)、一教員に対する平均児童生徒数は***、最大値*****、最小値*****となっています。

(出典) 川崎市教育委員会調べ



【課題】

本市の各小学校、中学校では、小規模化と過大規模化が同時に進んだことにより学校規模のアンバランスが生じ、教育環境の不均衡となってきました。小規模校は、教職員にとって児童生徒の状態を把握しやすいなどの利点がある反面、学級編成替えができないことなどにより、子ども同士、保護者同士の関わりが固定化することから、多様な人間関係を築くための地域全体での取り組みが課題となってきます。また、クラブ活動や部活動などの数が限定されることから、校種間連携や地域スポーツクラブとの連携を図るなど、児童生徒の多様な希望に応えるための場作りが求められます。

一方、過大規模校は、教員数の確保等で多様な教育活動を展開できますが、児童生徒ひとりひとりの理解に応じた指導の充実が求められます。また、特別教室、体育館などの施設設備の効率的な活用、校外学習の活動内容や安全面などの充実が必要です。

学校の設備・環境

【現況】

学校施設の平均築年数は*年、大規模改修工事が必要な学校数が*、複合化した施設数が*、教室不足の学校数が*、余裕教室の数が*となっています。

学校の改築等に際しては福祉施設等の他の公共施設と合築することや、市民の自主的な生涯学習・生涯活動・地域コミュニティの場としての活用が図られるよう積極的・多面的な複合化を進めています。

学校の設備・環境について

	小学校	中学校	高等学校	特殊学校	幼稚園
総数	114	51	5	3	2
平均築年数					
大規模改修工事予定数					
複合化施設数					
教室不足の学校数					
余裕教室の数					

(出典)

【課題】

今後は、改築時にとどまらず、既存校の大規模改修の際に地域のニーズにあった複合化・有効利用が求められています。同時に、長期的な視野に基づいた、学校の適正規模適正配置の検討が求められています。

また、「暗い・臭い・汚い」イメージになりがちな学校のトイレ環境などの身近な問題を、子どもたちの意見を取り入れながら解決していくことや、ヒートアイランド現象等、気温上昇に対する学校内の冷房化などの研究が必要とされています。

学校運営上の危機管理

【現況】

近年、学校では、予測できない事件（池田小学校事件）、事故（個人情報盗難）、災害（阪神淡路大震災）などのリスクが高まっています。学校は、これまで、子どもたちが安心して学べる場であると考えられていましたが、そのような考えは根底から崩れてきています。

市立学校での危機管理についての取組状況は、*****となっています。

危機管理への取り組み状況

	小学校	中学校	高等学校	特殊学校	幼稚園
総数	114	51	5	3	2
訪問者用インターホンの設置					
職員室と各階の直通電話の設置					
訪問者の記帳					
訪問者の名札着用					
校内パトロールの実施					
児童生徒の安全・防災教室の実施					
危機管理に関する教職員研修の実施					
不審者情報の共有					

（出典）

【課題】

学校は児童生徒にとって安全な場所であり、緊急時には、校長を中心に児童生徒の安全を最優先に行動をとることが重要です。そのためには教職員一人一人が、緊急時における対応について共通理解するとともに各学校の状況を踏まえた様々な状況を想定し校内協力体制を確立していくことが求められています。

また、ハード面で施設設備の点検及び充実に図っていくことが求められています。

今後の主な課題として以下のようなものがあげられます。

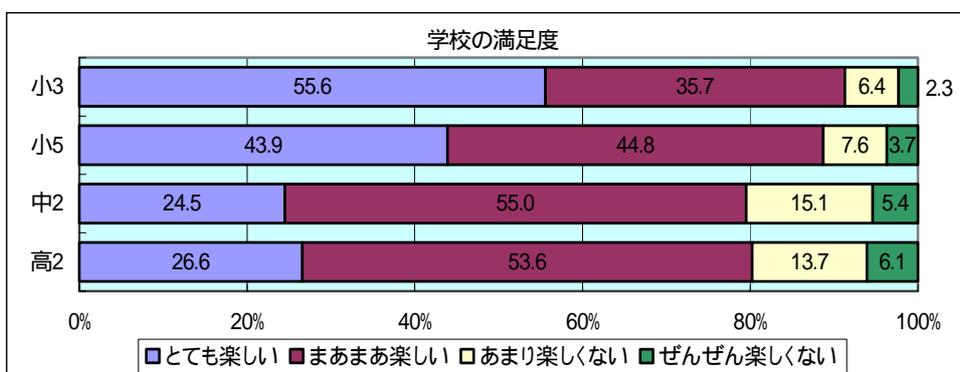
- ・教職員の学校での危機管理研修の必要性（危機を的確にとらえ予知・予測できる力、予防・回避するための敏速で機敏な体制）
- ・児童生徒へ対しての安全教育・防災教育の徹底（避難訓練等のマンネリ化の打開）

・学校、家庭、地域の関連機関との連携（連携システムの構築）

学校生活・授業

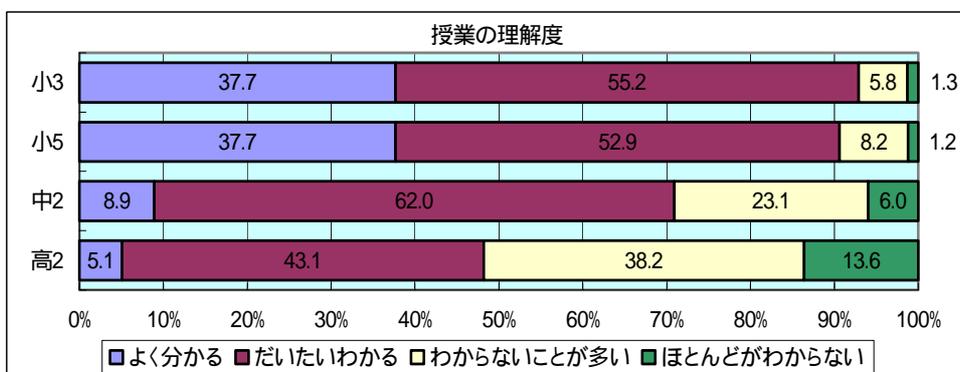
【現況】

川崎市総合教育センターが平成15年に実施した生活実態調査によると、学校での生活が「とても楽しい」という回答は、小3が55.6%、小5が43.9%でほぼ2人に1人となっているのに対して、中2、高2では、それぞれ24.5%、26.6%と、ほぼ4人に1人となっています。さらに、「まあまあ楽しい」を合わせると、小3では91.3%、小5では88.7%となり、ほぼ9割の子どもが学校生活を楽しいと受けとめています。また、中2、高2でも、この割合がそれぞれ79.5%、80.2%となり、ほぼ8割の子どもが同様に受けとめています。



（出典）平成14年度「研究紀要第16号」（川崎市総合教育センター）

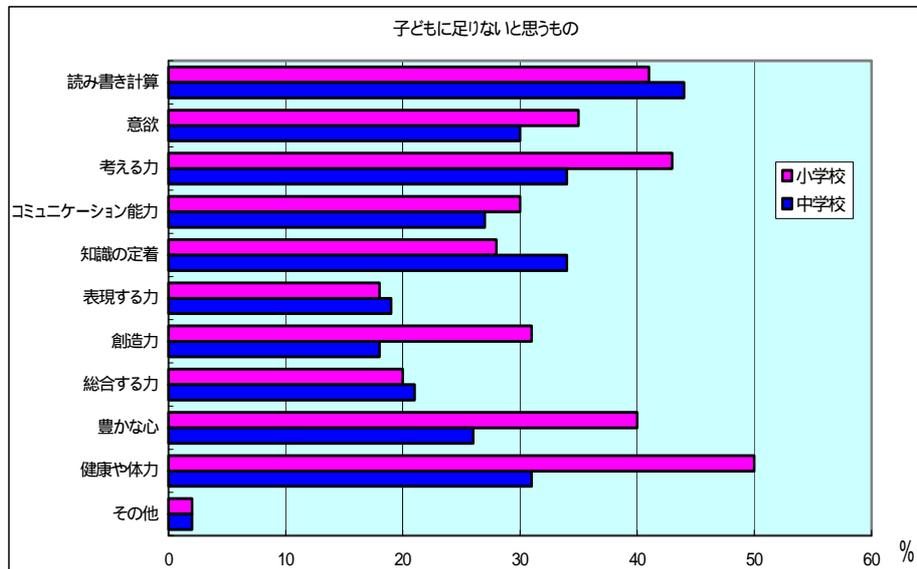
また、学校の授業が「よくわかる」という回答は、小3、小5ではどちらも37.7%であり、「だいたいわかる」を合わせると9割を超え、ほとんどの子どもが授業内容を理解できていると思っています。一方、中2、高2では「よくわかる」が急減し、それぞれ8.9%、5.1%と1割にも満たない状況です。また、学校の授業が「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせると、中2で29.1%、高2では51.8%となっています。さらに、高2では、13.6%が授業の内容が「ほとんどわからない」と回答しています。



（出典）平成14年度「研究紀要第16号」（川崎市総合教育センター）

一方、「この5～6年間を考えると子どもの学力が低下、又はやや低下した」と回答した教員は、

小学校で約5割、中学校で6割以上となっています。また、子どもに不足していると思うものとしては、小学生では、「健康や体力」「考える力」「読み書き計算」「豊かな心」が上位となっており、中学生では、「読み書き計算」「考える力」「知識の定着」「健康や体力」が上位となっています。



(出典)平成14年度「研究紀要第16号」(川崎市総合教育センター)

【課題】

学校の満足度、および、授業の理解度においては、総体的な満足度・理解度を上げるための対策検討も大きな課題のひとつですが、小中学校間においてその差が著しいことから、小学校から中学校への子どもの学習面や生活面等での接続をスムーズに行うことも課題として挙げられます。

子どもたちが育ち学ぶ場としての学校では、子どもたちが学ぶ楽しさや学ぶ価値を実感できるとともに、望ましい集団の中で自己実現が図れるように指導・支援していかねばなりません。そのためには、学校が子どもたちにとって安心して過ごせるように、よりよい人間関係づくりや他者と協力、協調して学習する機会等を意図的に設定しながら、教職員の適切な指導のもと、内発的な学習意欲の向上に向けた取り組みが課題として挙げられます。

これからの学校は、「開かれた特色ある学校づくり」に努め、教育の様々な課題を保護者や地域社会とともに共有し、子どもたちの夢を育む教育の実現に向け、鋭意努力していく必要があります。

児童生徒指導

いじめ

【現況】

本市の公立学校におけるいじめ(「自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。」と定義して調査)の発生件数は、平成